

令和8年度 岐阜県小学校理科研究部会 研究構想

理科の目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

テーマ設定に当たって

- ・理科の目標の具現に迫る研究（現行の学習指導要領の目指すところを今一度大切にする）
- ・理科好きの子どもから理科で育成すべき資質・能力を身に付けた子へ（何ができるようになったか）
- ・理科を指導する教師の指導力向上（教科担任制・若手教員の育成・小理研会員数の減少 等を見据えて）
- ・次期学習指導要領への改訂を視野に入れつつ、国の動向を踏まえたこれらの理科教育の在り方の追究

これまでの岐阜県の研究の成果と課題

i) 研究員による研究実践より

○働かせたい理科の見方・考え方を明らかにした指導の充実（指導計画・指導援助・ICT活用・評価）

●「問題を科学的に解決するための資質・能力の育成」を目指すことを目的とした授業改善

ii) 県大会（上矢作小学校）の研究実践より

○働かせたい理科の見方・考え方のツール化と考察の場面に重点を置いた問題解決の力の育成

●各学年における段階的・系統的な問題解決の力の育成

iii) 全国学力・学習状況調査より

●自ら問題を解決する力の育成（問題解決の過程におけるよさや高まりの自覚）

iv) これまでの歩みより

○自然に親しむ場や観察・実験を位置付けた理科授業（ものを大切にする理科）

●実感や感動を伴った理解を図るための教材開発や事象提示（ものを使う目的や意図のズレ）

●小学校理科における専門性と汎用性のバランスと若手教員の増加

令和8年度岐阜県小理研 研究テーマ（3／3年次）

自ら問題を科学的に解決することができる子の育成

【小理研が重点とする問題解決の過程における願う子どもの姿】

学びに向かう力・人間性 / 思考力・判断力・表現力等 / 知識及び技能

問題解決の過程

⑤自分の予想や仮説や実験方法、実験の行為を見つめ直し、新たに考え直している子

⑥自然の事物・現象について追究する中で、科学的に解決するために必要な自己選択・自己決定を行う子

（理科の見方・考え方を働かせながら）

①自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、自ら問題を見だし、表現している子

②自然の事物・現象について追究する中で、自ら既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現している子

③自然の事物・現象について追究する中で、自ら予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現している子

④自然の事物・現象について追究する中で、自らより妥当な考えをつくりだし、表現している子

⑦問題を解決することを通して得られた知識を適応して、新たな気づきや新たな問題を見いだす子

指導改善の窓

自ら科学的に問題解決するための
単元指導の工夫改善

自ら科学的に問題解決するための
教材・教具の工夫改善

自ら科学的に問題解決するための
学習過程及び指導援助
の工夫改善

自ら科学的に問題解決するための
評価の在り方
の工夫改善